



バラの会
まつさか まさお
松坂 昌應 議員

給食にオーガニックを

Q 島原市の有機農業の現状は。

A オーガニック栽培を取り組んでおられる生産農家は見受けられないが、趣味的個人的の域では存在している。食の安全や自給を考えると、経営として取り組んでいただきたい思いがある。

Q 販路がきちんと確保されれば、有機農業への移行は可能。そこでまず、学校給食をオーガニックにすることで販路を確保し、有機農業に転換していつてはどうか。

千葉県いすみ市にその例もある。南島原市も研究を始めている。まずは研究されることを提案したい。

A 販路の確保は重要。農業生産率を高め、高付加価値を付与するための調査研究等のメニューが農水省にあると思う。

子を持つ親の医療費負担

Q 子供の医療費負担の現状は。

A 乳幼児については現物給付方式といって、自己負担額一日八百円、二日以上であれば千六百円が負担の上限。小・中学生も同額だが、償還払い方式といって、一旦、窓口で支払って、申請手続きをして戻ってくる。

令和5年4月から高校生世代もその対象になる（償還払い）。

Q 利用する側からすれば、現物給付の方がいい。なぜ面倒な償還払い方式とするのか。現物給付でいいではないか。

A 現物給付にすると、医療費が増大するという現実がある。高校生世代は県のメニューで、償還払いから始められる。現物給付について地域差ができないよう、県、国に要望している。

【その他の質問項目】

◇会計年度任用職員の待遇

◇女性の登用を

◇有明海の再生



平成会
はまさき きよし
濱崎 清志 議員

まちづくり

Q 本市には県立、私立の高校があるが、高校生と企業等がコラボしている事業はあるのか。

A 本年度初めて県立5校との共創プロジェクトとして中堀町商店街で高校生カフェ「Mijicoカフェ」を昨年10月15日、22日、12月10日の3日間限定でオープンした。各学校と一緒に計画してアイデアを出し合い、得意分野を活用することで、地域住民と生徒が共に喜びを感じ合える学習の場を提供し、大変大きな評価をいただいた。

Q 過疎化していく現状を考えると、高校生と一緒に魅力あるまちづくりが必要だと思うがどうか。

A 大変意義のある提案だと受け止める。これまでも島原農業高校ではコンビニやそうめん屋とコラボした商品が開発されている。大学生世代が少ない本市にとって、高校生の技術や考え方は地域の財産である。

Q 本市に下宿や寮はあるのか。

A 現在、在籍している高校生が利用している学生寮や下宿は5件ある。

（私立高校所有学生寮1件、民間経営下宿4件）。3つの学校で利用があり、主に県内外からの部活動を受け入れている。

Q 町内会、自治会の世帯数と人口の推移はどうか。

A 町内会、自治会の加入世帯数の推移は、平成30年度1万3千460世帯、令和元年度1万3千322世帯、2年度1万3千146世帯、3年度1万2千968世帯、4年度1万2千862世帯。なお、人口については、加入世帯のみの人数把握が難しいため把握ができていない。

Q 町内会、自治会への加入促進を検討していただけないか。

A 世の中が多様化し、働き方や価値観が変わってくると、特に若い人たちはこれまでのような団体に入る価値観を感じない。入りやすい枠組みへ、知恵を出し合い、現実を考えながら変えるところは変える必要がある。

Q 集落支援員の設置について、安中地区だけではなく、なぜ有明、三会、杉谷地区は検討しなかったのか。

A これからの段階の中で十分視野に入れている。まずは安中地区を皮切りに、有明地区を含めてこの制度を拡大していきたい。

【その他の質問項目】

◇職員の年度採用と退職者

◇指定管理者制度